

高野榮一光科学基金の設立によせて

日本光学会幹事長 武田 光 夫
(電気通信大学)

日本光学会のA会員であられた高野榮一氏が一昨年6月にご逝去され、同氏のご遺志により多大なご遺産が日本光学会に遺贈されました。約1年半にわたる設立準備期間を経て、このたびご遺志に従い日本光学会の活動を支援するための「高野榮一光科学基金」が設立されました。

日本光学会を代表しまして、故高野榮一氏とご遺族の皆様方に深甚なる感謝の意を表します。

会員の皆様には、この機会に高野榮一光科学基金について知っていただき、今後の学会の発展に役立てていただきたいと思います。そのために、基金の概要をお伝えするとともに、基金設立の原点を忘れることのないように本稿を通じて設立の経緯を記録に残しておきたいと思ひます。

高野榮一氏はTVズームレンズや一眼レフ用ズームレンズなどの光設計分野で日本を代表する著名な技術者であり、実践的エキスパートとして当該分野をリードしてこられました。日本光学会では2年任期の幹事をつとめられるとともに、光設計研究グループの研究会での講演や執筆活動を通じて光設計分野の後進の育成に貢献されました。

ご遺言の付言事項には「本遺言書記載のとおり、財産の一部を社団法人応用物理学会日本光学会に遺贈することとしましたが、同団体の設立の趣旨に基づき、広く教育の振興、文化の向上のため、また私自身の専門分野である光科学の発展に寄与してほしいことを願い、熟慮の上決めました。とくに私の専門分野である分科会の日本光学会設計グループの活動資金として使っていただくことを希望します」(原文のまま)とありますので、高野氏のご遺志に忠実に従うべく、慎重に基金設立の準備を進めてきました。

ご遺言には日本光学会に遺贈すると記されていますが、応用物理学会の顧問弁護士に確認したところ「分科会である日本光学会には法人格がないため遺贈を直接受遺することができない。法人格のある応用物理学会が受遺者となるのが適切である」とのことでしたので、応用物理学会を通じて受遺することになりました。

2010年9月に、幹事長の武田を委員長とし日本光学会と応用物理学会の関係者からなる「高野榮一氏遺産寄付金使用検討会」を発足させ、基金の受け入れと運用に必要な諸規程の制定のための議論を重ねてきました。基金の名称は



図1 高野榮一光科学基金設立記念パーティー。(2012年2月10日、パシフィコ横浜会議センター)

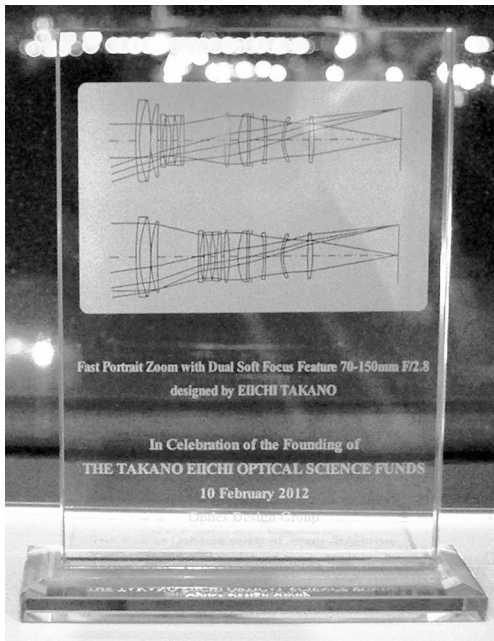


図2 日本光学会光設計研究グループから贈呈された記念の盾。高野榮一氏の設計によるソフトフォーカスズームレンズの光路図が刻まれている。

1982年に高野氏が設立した光科学研究所にちなみ「高野榮一光科学基金」(The Takano Eiichi Optical Science Funds)とし、法人格をもつ応用物理学会内の独立会計とすることにしました。また、基金の趣旨と目的等を定めた「高野榮一光科学基金規程」と、活用のための業務遂行に関する「高野榮一光科学基金委員会規程」を制定しました。基金規程には、高野氏のご遺志を永く記録にとどめるため前記の「付言事項」を付記し、それに沿って使用目的を

- (1) 光科学と光技術に関わる研究分野において優れた研究成果をあげた者の顕彰。
- (2) 光分野の将来の人材育成に資する事業。
- (3) 光分野の産学官連携の推進と拠点作りに資する事業。
- (4) 日本光学会の活動の国際化に資する事業。
- (5) 日本光学会の研究グループの研究活動の活性化支援。
- (6) 日本光学会の出版事業の強化支援。
- (7) 日本光学会の主催する研究集会の内容の充実のための諸活動の助成。
- (8) 上記の事業活動の実施に必要な事務経費と人件費。

としました。2011年9月に、日本光学会と光設計研究グループと応用物理学会から推薦された全7名の委員による2011年度第1回高野榮一光科学基金委員会(委員長:武田)が開かれました。そして、高野榮一光科学基金による



図3 日本光学会からの感謝状と光設計研究グループからの記念品の盾の贈呈式。

最初の助成事業として、光設計研究グループが2月10日にパシフィコ横浜で開催した「高野榮一光科学基金設立記念研究会」が支援対象に選ばれました。さらに、光設計研究グループが実施の主体となり応用物理学会とロシア光学会が共催する国際会議 ODF '12 (St. Petersburg), ならびに、レーザーディスプレイ研究グループが主体となり応用物理学会主催として横浜で開催する国際会議 LDC '12 への支援が決まりました。今後の基金の有効活用のための中長期的な計画については、光設計研究グループの中で現在検討が進められているところですが、会員の皆様と各研究グループにおかれましても、高野氏のご遺志にそった有効活用のためのアイデアやよい企画などを積極的にご提案いただき、日本光学会の活性化に役立てていただきたいと思えます。

最初の助成事業となった光設計研究グループの「高野榮一光科学基金設立記念研究会」の終了後には、「高野榮一光科学基金設立記念パーティー」を開催し、高野家のご遺族の皆様をお招きし、日本光学会より感謝状が贈呈され、光設計研究グループからは記念品が贈呈されました。応用物理学会からは小長井誠副会長が来賓として出席されて基金設立の祝辞を述べられました。

以上のような経緯で高野榮一光科学基金を設立することができましたが、その基金を活用し、日本光学会と研究グループの学会活動の活性化をはかり、付言事項に記された教育の振興、文化の向上、光科学の発展に役立てていくのは遺贈を受けた私たち日本光学会の責務です。会員の皆様のご理解とご協力をお願いする次第です。